

熊本県におけるIPMの実践(熊本市植木町) ～大長ナスにおける天敵を利用したアザミウマ類等対策～

①IPMに取り組むきっかけ

- ・施設ナス栽培において、アザミウマ類やコナジラミ類の防除は農薬散布に多大な労力が必要。
 - ・アザミウマ類等に対しては有効な農薬が少ないため、農薬のみでの防除は困難。
- 熊本市植木町の大長ナス農家で、天敵としてスワルスキーカブリダニを導入！

②IPMのポイント

☆防虫ネットと天敵スワルスキーカブリダニの導入

1 天敵導入の準備 ～害虫密度の抑制～



防虫ネットで害虫の飛込みを防ぐとともに、スワルスキーカブリダニを放飼する前に天敵に影響の少ない農薬を散布し、害虫の密度を低下させる



- ・害虫の密度が高まってからの放飼は十分な効果が得られない。
- ・天敵に対する影響を確認し、影響の少ない農薬を散布する。

2 放飼 ～天敵が増殖・活動しやすい環境を作る～



- ・害虫の発生直前から発生初期に最初の天敵を放飼する。
- ・施設内の温度を15℃以上に保つ。
- ・害虫の密度が高まったら、天敵に影響の少ない農薬で害虫密度を下げる。



- ・天敵に対する影響を確認し、影響の少ない農薬を散布する。
- ・スワルスキーカブリダニは、15℃以下になると活動が低下する。

③IPMを導入して

生産者の感想

【IPMを導入した経緯】

大長ナスは、品質を良くするために、以前から施設で栽培をしています。栽培当初から、「消費者に安全・安心な大長ナスを届けたい！」という強い思いがありましたが、アザミウマ類やコナジラミ類の防除で農薬散布が欠かせませんでした。このような中、普及指導員から害虫防除にスワルスキーカブリダニの導入が有効でないかとアドバイスがあり、取り組んでみました。

【IPMを導入した結果】

4月下旬にスワルスキーカブリダニを放飼しました。その後、害虫の発生状況に応じて、スワルスキーカブリダニに影響の少ない農薬を選択しながら計画的に防除した結果、殺虫剤の使用が以前よりも4割程度軽減でき、農薬散布回数も2割以上減りました。

【IPMを導入してわかった課題】

- ①防虫ネット利用に伴い夏場はハウス内温度が高温になる。
- ②スワルスキーカブリダニは低温では活動が鈍るため、低温期に活動する天敵が求められる。
- ③天敵農薬が高価なため、スワルスキーカブリダニを放飼すると、農薬散布回数は減るが、短期間の栽培では天敵を含めた全体の農薬代は通常栽培よりも高くなる。

現場担当普及員の感想

大長ナスの栽培環境を見たとき、夏場のスワルスキーカブリダニ放飼を中心としたIPM導入は可能だと判断しました。実際に4月下旬にスワルスキーカブリダニを放飼しましたが、この時期は夜温の変化が激しく、定着を確認した後も思った程の増殖がなく、梅雨明け以降の高温期までは不安定な状況でした。しかし、生産者と話し合いながら防除計画を作成し、2週間毎に巡回指導したことで予想以上の成果を得ることが出来ました。

天敵がいても害虫が多いと果実に食害が出るため、害虫の発生量に対する適正な天敵の量を把握するなどの課題は残っていますが、防除効果が確認されたことから、安全・安心な農産物生産のために今後も推進を図っていきたいと考えています。

【大長ナスとは？】

大長ナスは、長さが 約70cmもあり通常のナスの3倍程長いという特徴があります。

その味は、果肉には甘さがあり、柔らかくてアクがありません。そして「煮てよし」「焼いてよし」と料理を選ばないので、いろいろなナス料理でその美味しさを実感していただけます。

大長ナスは、上から下まで同じ太さで、どこで切っても使いやすく、捨てる部分が少なく、ごみの減量になることも大きな特徴です。

天敵を中心としたIPM技術を導入したことで、農薬散布量を減らしたさらに安全・安心な大長ナスの生産が行えるようになりました。

是非一度ご賞味ください。

